

CONTENTS COMBAT

2017.Sep.
No.498

9

Cover Design
Favorite Graphics Inc.
Cover Photo
Hiro Soga / Koji Yushina(WPP)
©WORLD PHOTO PRESS 2017



【巻頭特集】

010 THE US Service Rifle

米軍制式軍用小銃

012 アメリカ陸軍 制式小銃発達史

032 M4ライフルを使用する上級戦術射撃トレーニング

ADVANCED TACTICAL TRAINING

033 USミリタリー制式小銃トイガンカタログ

【特集/ミリタリー】

038 SIG SAUER P320

実射して考えたXM17MHSトライアル
に勝利した3つの理由

046 MV(ミリタリービーグル)に耽る

056 ニッポンの力こぶ

092 The Equipments of the U.S. Force

[現用米軍装備カタログ]

ミリタリー系サバイバルグッズ

117 Militaria Roundup!

WWIIアメリカ軍 Kレーション

【特集/トイガン】

066 東京マルイ 電動ショットガン SGR-12

●Photos & Text by Taku

072 TANAKA WORKS

S&W M327

PERFORMANCECENTER 2in HW Ver.2

●Photos & Text by SHOTGUN MARCY

075 WESTERN ARMS

STI HEX TAC 5.0 DS

●Photos & Text by SHOTGUN MARCY

080 WESTERN ARMS

COLT DELTA ELITE RAIL GUN

●Photos & Text by SHOTGUN MARCY

004 COMBAT FRONT LINE

突撃!!びっちょりーな☆

064 The World of Little Armory

082 NEW GENERATION STYLER

●fujiwara

102 トイガンニュース

102 WA スネーク・マッチ1911/CBHW

104 タナカ コルト・パイソン/スネーク・アイズ
2.5インチ“Rモデル”ニッケル

105 タナカ M92Fアイノックス/エボリューションHP

106 サバゲ三等兵

●織本知之

114 WANCHER'S STYLE ●織本知之

116 DJちゅうの妄想雑記ノート

128 PRESENT

146 Goods & Accessory

150 PROJECT NINJA ●morizo (新東京装備BAKA)

154 兵装嗜癖 ●by fujiwara

156 ミリいじ技研 ●by Tomoyuki Orimoto

196 短期連載 中部・東海ミリタリーショップ紀行

199 漢のマスバイ シュアファイアMASTERFIREホルスター

203 博多ミニミリ

200 中田商店グッズ

202 S&Grafグッズ

129 GAME OVER THE TOP

132 US SHOOTING LIFE

134 読んで覚える TakuのHOW TO Shooting 射撃のススメ

136 アラフォーズ!

138 銀座ナイフショー

139 シネマ放浪記 サマーバケーションスペシャル

140 トイガンズ・ジャンクション

172 サバゲ三等兵APS部!

175 世界のTK & びっちょ Go OKAZAKI!

176 編集長日誌

177 バックナンバーリスト

178 ミリタリー・コレクション

180 レア・ミリタリー・コレクション

182 A STITCH IN TIME

183 FICTION WARRIOR レポート

184 シネマ放浪記

185 新作DVD紹介

186 蛙のゆびさき

188 戦車兵通信 WORLD OF TANKS

190 コンバットマガジン・インフォメーション・センター

191 読者プレゼント応募方法

192 編集後記



※本文中の価格は消費税込みの
総額表示です。



米軍制式軍用小銃

世界最強かつ最大の軍備を誇る米軍。彼らが使う銃器は多岐にわたっているが、メインとなる制式小銃は基本1機種である。イギリスからの独立のために大陸軍(米軍の前身)が創設から250年余り、現在までに採用されてきた米軍制式小銃の変遷を追いつつ、最新のM4カービンによるタクティカル・トレーニングをも紹介!!



THE US SERVICE RIFLE



SIG SAUER P320 FDE COM- PACT

実射して考えたXM17MHS トライアルに勝利した「3つの理由」

米陸軍の次期制式サイドアームを決めるべく、
かれこれ10年近くも続いていた
「XM17MHS(モジュラーハンドガンシステム)トライアル」が今年2月に決着!
SIG SAUERのストライカー式拳銃「P320」が勝利した!
SHOTSHOW会場での電撃発表当時は、
指をくわえて誌面やネット情報を眺めるしかなかった……。
そんな筆者が、遂に話題のP320を心ゆくまで撃ち、試合にも投入!
じっくり体感・吟味する機会を得て、
この銃がトライアルに勝った理由を考えてみた!

●Text by Takeo Ishii Photo by Takahiro Soyama, Takeo Ishii

PART.1 次期米軍制式拳銃へのつのる思い

本誌先々月号、すなわち2017年7月号の特集「SIG威風堂々」でも、大きなスペースを割いてSIG SAUER P320が米陸軍の次期制式サイドアームに決まったニュースを報じている。長谷川朋之氏による「戦闘銃としてのSIG総論」や、米アリゾナ在住の鮫島宗貴氏による「P320 X5 vs P226」の記事だ。バックナンバーを取り寄せてでも読む価値アリの内容だ。

さて、こうなると俄然、自分の中で、そして読者の皆さんの中でも、P320の存在は日増しに大きく、もう、どんど

ん膨らんでしまったハズ。

そりゃそうだろう。今回の勝利でまず米陸軍に都合28万7,000挺(フルサイズ28万挺、コンパクト7,000挺)が納入されるのを皮切りに、ほかの米軍機関にもさらに20万挺近くが納入されるといい、いずれは海軍や海兵隊も陸軍に倣うはず。そう、あの伝説的なM1911A1や現行のベレッタM92FS同様、「米軍の顔」となる事がもう決まった拳銃なのである。“注目するな”という方が無理だ。

いっぽうで筆者の周囲には否定的な

意見も多かった。いわく「あまり格好良くない」とか、「銃身軸の位置がグロックより高いので反動が強いに違いない」とか。こういった意見の方たちは皆日本人で、写真や映像だけを見た印象だけで喋っていただけなのだが、なんとなく筆者もP320にそんなイメージ、というか先入観を抱きつつあった。「イカンイカン、これは1日も早く実物を自分の手で撃ってみないと!」

そう思うと焦りはますます強くなった。

SIG SAUER P320 FDE COMPACT

全長: 7.2インチ(=183mm) 全幅: 1.3インチ(=33mm)
銃身長: 3.9インチ(=99mm) 重量: 25.8オンス(=731g)
使用弾薬: 9×19mm(.357SIG、.40S&W、.45ACPパージョン有)
装弾数: 15+1発(.357と.40では13+1発、.45では9+1発)



「U.S.M17」の座を最後まで争ったグロックは、最近になってトライアル提出バージョンであるタンカラーのG19とG23の画像を発表した。最終段階ではこのP320 FDE Compactとの壮絶な一騎打ちになった事が想像される。



筆者の盟友、塚田恭平氏の会社「KT.ARTS」の本業はエクステリア、インテリア等のオリジナル・アイアン製品を製作する会社だが、敷地内に、こんなのがあって……。



工場の中にはM3の形をしたモノが、履帯、グリル、凄い！

それがこうなった！

軍用車輛が欲しい！

～ミリタリーヴィークルのオーナーになるために～

軍用車輛に乗りたい！ 軍用車輛が欲しい！ と云った質問やご希望をよく頂戴する昨今である。そこで今回は以前、本誌「ショップ特集号」(2017年1月号)で紹介した軍用車輛購入作戦の上級編である。軍用車輛、所謂ミリタリーヴィークル(MV)に関して些かディープに筆者、デューク廣井が解説させて頂こう！

そもそもMVと云う代物、民間に存在しないグッズである事をご承知置き願わねばならない。コレクションとして稼働不能な車輛を所有するのはさほど難しい事はなく、金銭的・スペース的な物理的問題が解決すればオーナーになれる。しかし、MVを公道で走らせるには民間仕様の書類、車検証が必要であり、前述の問題の上に法的な問題が

のし掛かるのである。何か脅かしているようで心苦しいが、これが事実なので致し方ない。ではどうすればイイのか?! ズバリ「その道のプロ」に相談すればイイのだ！ ショップ特集号でも紹介したが、専門ディーラーも存在する他、筆者も所属する「一般社団法人日本ミリタリーヴィークル協会(NMVA)」へ直接ご連絡頂くのもOKだ！ 公式ホームページには売買情報なども掲載されているので、一度覗いてみて欲しい。

この世の中、狭い日本と言えども結構な数のMVが存在している。高齢のMVオーナーさんが、この貴重なアイテムをネクスト・ジェネレーションに託したいと思っていると云うお話もよく聞きます。そんな情報は集まる処に

集まるのです。MVオーナーになると決めたらアンテナを張り巡らし、勢力的に情報を収集しましょう。他力本願でお任せしまくりもダメです、ご自分の足も耳も使しましょう。事実、24歳のフレッシュマンがつい先頃、念願のMVオーナーになる瞬間に立ち会いました。いい顔してましたよ。

さて今回ご紹介する方は趣味でMVを収集し、レストアも行なうディープなマニアな上、売買の仲介もしてくれる頼れる味方です。筆者は近頃NHK報道局の歴史的監修をさせて頂いておりますが陰日向で協力を仰いでいる盟友です。読者諸兄に在っては彼がレストア中の車輛画像を見ながらイメージを膨らませて下さいませ！

ここはレストアや譲渡も行なうMVフリーク垂涎の聖地である。

MVに耽る。
MILITARY VEHICLE



なんとベースはヤマハ・ビラーゴ250cc。しかし塚田氏の手にかかるとこうなるのだ！ まるっきりハーレーじゃん！ 全て込みで1,000,000円。

MV SHOP INFO

K・Tアーツ



高崎 Office ④群馬県高崎市石原町3548-62
Tel.027-324-6686 Fax.027-324-6656

藤岡 Factory ④群馬県藤岡市中150-1
Tel.0274-25-9989 Fax.0274-25-9988

水曜日定休 <http://www.ktarts.jp/>



1 塚田恭平氏(左)と筆者、そして今年5月にMVオーナーになったばかりの中村優太くん(右)。テレビのドキュメント撮影時に車輛を提供した時の写真。8月下旬にNHK総合で放送予定です。**2** 中村くんが購入した三菱改造MB。車検なしの出し値で700,000円だそうです。参考にして下さい。

オートジャンクション



今年の1月号でも紹介した、レストアやパーツ製作もこなす四駆屋さんのオートジャンクション。

④東京都板橋区徳丸5-39-12
Tel.03-5398-1649 Fax.03-5398-4449

⑩10:00~19:00 水土日祝休
<http://www.autojunction.co.jp/>
※営業日に注意、要電話。

筆者が淨手を動かしたMB。オリジナル車検付き4,000,000円だ。



西部方面 普通科連隊 日仏英米共同訓練



島嶼防衛強化を図る自衛隊。この目標を達成するために、
現在精鋭化を急いでいるのが西普連こと、西部方面普通科連隊だ。
この部隊は2018年に新編される水陸機動団の中核部隊となる。
日本における着上陸戦のプロがグアムで繰り広げた訓練をご紹介します。

写真・文／菊池雅之

沖でCRRC (Combat Rubber Rafting Craft) から海へ。波や音を立てないようにゆっくりと泳いで浜辺を目指してきた西普連の偵察部隊。彼らが被っているのが、BUSCH社のタクティカルバンパヘルメット「AMH-2」だ。



アブラ港に停泊中の「ミストラル」(写真右)と「クールベ」。西普連は、この「ミストラル」に乗って佐世保からグアムへとやってきた。



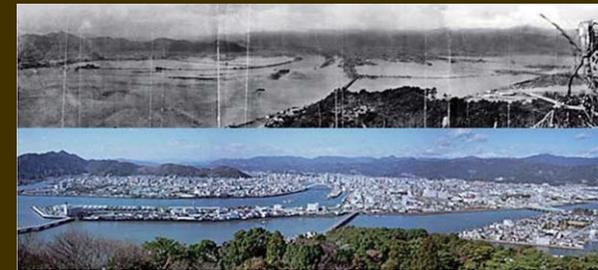
グアムでの訓練中、陸自幹部と会話を交わすフランス軍幹部。本格的な実動訓練こそ行なえなかったが、日仏のパートナーシップは磨かれた。

米軍現用装備を集めていると、軍用コンパスから止血帯や携帯食料、大物では浮力ベストなんて物までが部屋の片隅に沢山溜まっている事に気が付く。普段生活する上で全く不要な物ばかりだが、近年の大災害にもしも遭遇したと考えるとそのアイテムが急に輝いて見えてくる。

筆者の生活圏は近年最大M8最高津波高30mが想定されている南海地震が起こる「高知県」だ。100～200年の周期らしいが、前回は終戦直後の1946年だったので、現在は71年目（2017年現在）。100年周期と考えると今から30年先までの間に確率がグッと高くなる計算なのだが、今の地震予知は全く当てにならないので、明日起こってもおかしくない状況と常に思っておく事が大事だ。

まずは想定されている地震規模を把握し、自分の地域がどのような被害が多くなるかを考えておく。筆者の1日の行動は主に車で行動している事が多く、自宅は頑丈な岩盤で出来た広大な高台地域に住んでいる。自宅は食料の備蓄でまかなえるので、サバイバル・グッズは車載できるもので構成してみた。想定は3日間から最悪6日間までを生き抜く事が出来る装備だ。大災害とはいえ生活圏内なので、警察や自衛隊の救助を考えると3日あればなんとかなるだろう。それ以上になると自分で運べない重さになるからだ。米軍の小型バックパックは一般の3Dayパックと同じ容量なのでEAGLE industries製3Dayバックパック（MULTICAM）を使う事にした。入手困難なハードアイテムも出てくるが、代用が利く市販素材もあるので自分の状況に合ったアイテムの参考として頂きたい。

南海地震は、紀伊半島の紀伊水道沖から四国南方沖を震源とする周期的な巨大地震の呼称。南海トラフ西側でプレート間の断層滑りが発生する低角逆断層型の地震とされる南海地震は1946年（昭和21年）に発生した昭和南海地震を指す名称であるが、広義には安政南海地震や宝永地震（南海トラフのほぼ全域が震源域）など、南海道沖を震源域とする歴史地震も含まれ、さらに将来、同震源域で起きると想定される地震も含めて南海地震と総称される。また、南海大地震や南海道地震と呼称される場合もある。



津波による浸水域はあまり変わらない。上：昭和21年南海地震後の高知市の様子
下：現在の高知市（五台山より）
【高知大学理学部 岡村教授のHPより】



2011年に起こった東日本大震災。混乱と乏しい情報で多くの方々が亡くなった。「先人は津波が来たら蜘蛛の子を散らすように高いところへ逃げた」と助かった老人が語っていたのが印象的だ。



1946年南海地震での被害。波の高さは東北震災より低かったが、それでも大惨事だった事には変わらない。



来たる南海地震の津波による浸水域予想のハザード・マップ。高知市はほぼ浸水する。



The Equipments of the U.S. Force

【現用米軍装備カタログ】第155回

ミリタリー系サバイ
未曾有の大災害から

バル・グッズ
生き抜け！

●解説:松原隆
●撮影:山崎 学
●協力ショップ:LAZY CAT
(<http://lazycat.jp/>)
TRI'S (旧特工工房)
(<http://tri-ss.com/>)
Gamis (<http://www2.ocn.ne.jp/~gamis/>)
トイソルジャー
(<http://www.toysoldier.com.hk/>)